

オルセー美術館総合監修

画家の父 映画監督の息子 2人の巨匠が日本初共演

# ルノワール +

Renoir+Renoir exposition organisée avec le Musée d'Orsay



ピエール=オーギュスト・ルノワール(田舎のダンス)(部分) 1882-83年 オルセー美術館 ©Photo RMN / H. Lewandowski / digital file by DNPAC

# ルノワール展

2008.5.20[火]—7.21[月・祝]

京都国立近代美術館 [岡崎公園内]

■入館料(税込):一般1,500円(1,400円)／大学生1,100円(1,000円)／高校生700円(600円) ※( )内は前売及び団体料金、団体は20名以上、中学生以下無料 ■休館日:毎週月曜日 ※ただし7月21日は開館 ■開館時間:午前9時30分～午後5時／5～6月の毎週金曜日は午前9時30分～午後8時／7月中は連日午前9時30分～午後7時(入館は各閉館時間の30分前まで)  
 ■主催:京都国立近代美術館、オルセー美術館、読売テレビ、読売新聞大阪本社 ■後援:フランス大使館、シネマテーク・フランスズ  
 ■特別協賛:大和証券グループ ■協賛:大日本印刷、損保ジャパン、非破壊検査、タケモトピアノ ■協力:日本航空、日本通運  
 ■特別協力:京都服飾文化研究財団 ■お問い合わせ:京都国立近代美術館／京都市左京区岡崎円勝寺町 TEL:075-761-4111  
 ■前売券は主なプレイガイドで3月20日(木・祝)発売



Musée d'Orsay

ytv  
50%

# ルノワール+ルノワール展

ピエール=オーギュスト・ルノワール  
© Photo RMN -  
© Droits réservés/  
distributed by DNPAC



ジャン・ルノワール  
© Photo CNAC/MNAM Dist. RMN -  
© Droits réservés/  
distributed by DNPAC

印象派などヨーロッパの近代美術の巨匠については、過去100年の間に世界中で数多くの展覧会が開催されてきました。近年では、その展示に様々な工夫や作品理解のための斬新な切り口が提示され、従来とは異なる新しい鑑賞の視点を探る実験的な展覧会も開催されています。今回の展覧会「ルノワール+ルノワール展」もこうした実験的な試みの一つであり、2005年にパリのシネマテーク・フランセーズで実施された展覧会を基に、日本での開催のために新たに再構成した内容となります。

今回の展覧会では、印象派の巨匠ピエール=オーギュスト・ルノワール(1841-1919)と、その次男でフランスを代表する映画監督ジャン・ルノワール(1894-1979)を取り上げます。父ルノワールは1874年の第1回印象派展への出品以降、モネと並ぶ印象派を代表する画家として近代美術史に名を残すとともに、身近な人物や裸婦を明るい色調で描いたその作品は多くの人々から愛され、世界各地の美術館で所蔵されるに至っています。幼い頃から父のためにモデルを務めた息子ジャンは、第一次世界大戦での戦傷の療養中に映画に興味を持ち、1920年代から映画製作の道に進みます。『大いなる幻影』(1937)や『ゲームの規則』(1939)、『フレンチ・カンカン』(1954)など、人間の持つ多様性への深い眼差しに支えられたその作品は高い評価を獲得し、ヌーヴェル・ヴァーグの旗手フランソワ・トリュフォーやジャン=リュック・ゴダールなど後世の映画監督たちに多大な影響を与えました。

表現手法は異なりますが、ジャンの映画には父の絵画を想起させる場面が数多く登場します。映画における水や自然、外光への愛着、モデルの扱い方等から、ジャンが制作にあたって父の絵画から多くを得ていたことがうかがえます。両者の共通点を探るため、会場を「家族の肖像」「モデル」「自然」「娯楽と社会生活」の4つのテーマに分け、父の絵画と息子ジャンの映画の抜粋とを対比的に展示します。本展が試みようとしているのは、息子ジャンが父から受けた影響を明らかにすることではなく、息子であり映画監督であるジャン・ルノワールを通じて立ち現れてくる画家オーギュスト・ルノワールの作品世界であり、その作品に対する私たちとは別の視線を見出すことと言えます。

印象派絵画の登場とほぼ同時期に発明された写真術と映画は、20世紀の主要な視覚メディアとなりました。これらの視覚芸術は、移ろい過ぎゆく自然や現実の時間を、どのように切り取り再現/表現するか、「画家=私」がどのように世界を視るのかという問題意識をその出発点において共有していました。19世紀の印象派絵画が提起した「私」と世界との関係性をめぐる問題は、20世紀の優れた映画においても継承され実践されています。息子ジャンが父オーギュスト・ルノワールから受け継いだもの、それは決して類似したモチーフではなく、世界に対するこうした眼差しではなかったでしょうか。

オルセー美術館の全面的な協力により実現した本展は、同館所蔵のルノワール作品18点を含む国内外から集められた絵画作品約50点と、初期から晩年を網羅するジャンの12本の映画の抜粋で構成されます。

左列・上から ピエール=オーギュスト・ルノワール 1.《田舎のダンス》1882-1883年 オルセー美術館 ©Photo RMN / H. Lewandowski / digital file by DNPAC 2.《ぶらんこ》1876年 オルセー美術館 ©Photo RMN / H. Lewandowski / digital file by DNPAC 3.《陽光のなかの裸婦(試作、探検・光の効果)》1875-1876年頃 オルセー美術館 ©Photo RMN / H. Lewandowski / digital file by DNPAC 4.《ガブリエルとジャン》1895-1896年 オランジュリー美術館 ©Photo RMN / J. Schormans / digital file by DNPAC 5.《自画像》1879年 オルセー美術館 ©Photo RMN / J. G. Berizzi / distributed by DNPAC 6.《産る娘(エレヌ・ベロン)》1909年頃 オルセー美術館 ©Photo RMN / Preveral / digital file by DNPAC  
右列・上から ジャン・ルノワール 1.『ゲームの規則』1939年 Les Grands Films Classiques. ©Ministère de la Culture - Médiathèque du Patrimoine / Sam Lévin / dist. RMN 2.『ピクニック』1936年 Paris. Collection Cinémaèque française; fonds Femis; D.R. 3.『恋多き女』1956年 ©STUDIOCANAL IMAGE/TELEDIS/ELECTRA COMPAGNIA CINEMATOGRAFICA 4.『ピクニック』1936年 Paris. Collection Cinémaèque française; D.R. 5.『草の上の昼食』1959年 STUDIOCANAL IMAGE. Collection Cinémaèque française; D.R. 6.『フレンチ・カンカン』1954年 Production Gaumont 1954, collection Musée Gaumont 7.『黄金の馬車』1952年 ©BetaFilm GmbH

## 【ジャン・ルノワール監督作品をDVD上映】 平日鑑賞特典として、火～金曜日に随時上映予定

会場:京都国立近代美術館 1階講演室 ※プログラム詳細は当館ホームページをご覧ください。  
上映作品:『大いなる幻影』『フレンチ・カンカン』『恋多き女』ほか

## 【関連展示:『オーギュスト・ルノワールとパリ・モード(仮)』 5月13日(火)～7月21日(月・祝)

会場:京都国立近代美術館 4階 コレクション・ギャラリー 特別協力:京都服飾文化研究財団



【JR～バスをご利用の方】JR-近鉄京都駅前(A1)のりばから市バス5番岩倉行「京都美術館前」下車/JR-近鉄京都駅前(D1)のりばから市バス100番(急行)銀閣寺行「京都美術館前」下車  
【阪急電鉄・京阪電鉄～バスをご利用の方】阪急烏丸駅・河原町駅、京阪三条駅から市バス5番 岩倉行「京都美術館前」下車/阪急烏丸駅・河原町駅、京阪四条駅から市バス46番 平安神宮行「京都美術館前」下車  
【市バス他系統ご利用の方】「東山二条」又は「京都美術館美術館前」下車 徒歩約5分  
【地下鉄ご利用の方】地下鉄東西線「東山」駅下車徒歩約5分

## 京都国立近代美術館 [岡崎公園内]

〒606-8344 京都市左京区岡崎円勝寺町 TEL.075-761-4111  
美術館 HP <http://www.momak.go.jp>

